

モデル事業名	地域の宝「人」と「文化財」が協働したコミュニティ創生事業
活動団体名	荻道・大城湧水群活性化実行委員会
ホームページ	
所属／担当者名	荻道・大城湧水群活性化実行委員会 事務局 仲村 洋
連絡先	098-935-2233 (内273)
活動地域	沖縄県中頭郡北中城村字荻道・大城地区

● 活動地域の概要

荻道・大城地区は、北中城村南部に位置し、面積は121ha（村域の11%）、世帯数は約330世帯、人口が千名に満たない非常に小さな集落である。平成12年度には1190名いた人口も毎年減少しつつある。以前は路線バスが運行していたが、2003年に廃止され、現在では自家用車が主な交通手段である。

両地区には、世界遺産の中城城跡や、国指定重要文化財の中村家住宅、荻堂貝塚、平成の名水百選に選定された荻道・大城湧水群など、多くの歴史文化財が現存している。そしてこれらの文化財と調和した景観整備が実施されると共に北中城村の全村植物公苑づくり条例に基づいた景観協定を締結し、地域全体で景観の向上に取り組んでいる。又、地域住民による緑化、美化活動が活発に行われ、常時良好な景観を保持している。



【沖縄県】



【中城城跡】



【地域のまちなみ】

● 活動地域の課題

両自治会は地域活動が活発で自治会単独での地域おこしに積極的に取り組んでいるものの、青少年の地域活動への参加が乏しく、地域伝統文化や儀式が継承できなくなる恐れがある。又、新たに地域に移り住んできた移住者に対して地域への積極的な参加を啓発できていない現状がある。高齢化が進み、人口が緩やかに減少しつつある両自治会にとって、青少年への地域文化財の継承は非常に重要であり、青少年が地域に関心を持つような取り組みをする必要があると共に、地域住民全体で地域について考える必要がある。

● 活動の内容

地域の地域文化財を調査し、継承し、発信することで、継続した地域コミュニティの保全を目指す。

- 地域にある湧水群の水質、地質を調査し、データとして保存、活用する。
- 地域の無形文化である兄弟棒の型を継承する。
- 地域散策マップを作成。又、湧水群写生大会を実施し、地域情報を地域外へ発信する。
- 地域の教本を作成し、全世帯へ配布。地域全体で地域文化財について熟知し、今後の世代へ継承する。

（直近1年間の進捗など）

- 地域散策マップを活用した地域文化財巡りを実施。
- 兄弟棒を継承する為の組織を構成。
- 地域の他イベントと共同したまちづくり体制を構築（ひまわり IN 北中城）

● 活動の成果

・地域住民が日常生活に溶け込んでいて日頃意識していない地域文化財の重要性について熟考する機会が得られた。特に、子供たちに地域の文化に触れる機会が増えたことで、幅広い世代が意見を交換し、情報を共有できたことは、活動を通してコミュニティ保全に一番有効な対策であったと考える。
又、学校やガイド会など、他団体と連携を構築できるきっかけができ、今後の活動の発展に繋げていけるようにする必要がある。



【地域探検コース作成の様子】



【文化財散策コース作成の様子】

・直近1年間の成果など

○地域散策マップを活用した地域文化財巡りを実施。
他団体（北中城村ふるさとガイド会）と協働して、荻道・大城文化財巡りを実施。地元住民が主体となり作成した地域散策マップを手に参加者が両地域を散策した。



【両地域の文化財巡り】

○両地域に古くから伝わる兄弟棒の型を固定化し実演。
毎年、旧盆の七夕に両地区の境界沿いで行われる伝統儀式であるが、これまで形式的になっていた棒術の型を永続して伝承できるよう固定化し、若い世代まで継承するため、兄弟棒保存会を発足させた。発足初年度から、旧盆の七夕に儀式にて地域住民に披露し、地域の子供たちへ継承できる体制を構築している。



【兄弟棒(フォード・ボウ)】

● 今後の課題及び展望

・課題

案内はしているものの、青少年の活動への参加者が予想以上に少なかった。そのため、地域活動への呼びかけをさらに工夫して、いかに青少年へ地域への愛着醸成を実現できるかが今後の課題であると実感した。

又、ガイドの会と協働した観光案内による広告収入の確保や、荻道・大城湧水群である10ヶ所のカー（井戸）の水脈に泡盛を保管し、古酒を販売する方法も検討されたが、実現にはいたらなかった。今後の継続した活動のためにも自主財源の確保が今後の課題の一つである。